

## 焼人骨集積土坑の調査

焼骨は脆弱で、かつ専門的見地からの調査が必要であることから、遺構ごと地面から切り取り、令和4（2022）年度から新潟医療福祉大学で調査を行っています。室内で焼骨の状態、埋葬方法を観察しながら、詳細に調査を進めた結果、穴が埋まった過程は3段階に分かれることがわかりました。

土坑の上部では小さな骨がランダムに集積していましたが、下部では外周（1辺50～60cmほど）を四肢骨（脚や腕の長い骨）で囲い、内部に頭骨を置くような状態で埋葬されていました。さらに最下部では、四肢骨を東西方向に並列させており、焼骨を規則的に配列しながら埋葬したことがうかがえます。

被葬者は少なくとも6体あり、全身の骨が出土しました。焼骨の色や状態から、600～800℃以上の高温で長時間焼かれたと推定されました。被葬者像や被葬者間の関係、焼いた場所と方法などを明らかにすることが今後の課題となります。



下部の埋葬状況（東から）  
外周を四肢骨で方形または多角形に囲っています。



最下部の埋葬状況（東から）  
四肢骨を東西方向に並列しています。

## 被葬者像

被葬者像について、骨の形の特徴から読み取れる点があります。抜歯習俗が確認された上顎骨・下顎骨があることから、大人の個体があることは確かとみられますが、骨の大きさから子どもと推定される個体も認められます。また、潜水などの冷水刺激で生じた可能性がある外耳道の骨腫、野山を駆けめぐった痕跡とされる柱状大腿骨（ピラステル）の発達など、縄文人の暮らしぶりを推測できる個体も確認できました。



抜歯習俗の有無  
犬歯部（けんしぶ）の歯槽（しろう）の吸収が確認された左下顎骨（左）  
歯槽の吸収が認められない右下顎骨（右）



外耳道の骨腫



柱状大腿骨（ピラステル）の発達

# かみの しょうじんこつしゅうせきどころ 上野遺跡 焼人骨集積土坑説明会



令和5年11月26日（日）

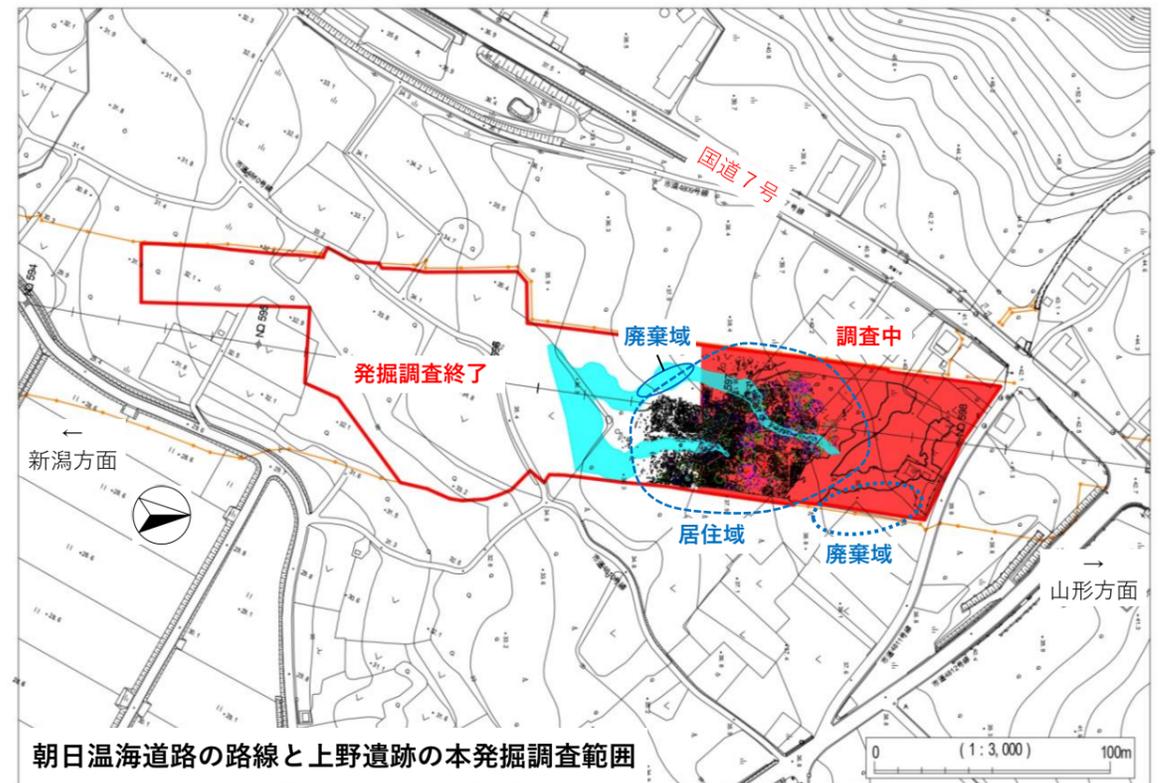
国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所  
公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団  
新潟医療福祉大学自然人類学研究所

## 1 遺跡の概要

日本海沿岸東北自動車道の一部になる国道7号朝日温海道路事業に伴う上野遺跡の発掘調査は、平成29（2017）年度から継続して実施しています。

遺跡は高根川右岸の扇状地に立地します。扇状地は、西側の山地から土石流として流れ出た真砂土（風化した花崗岩）により形成されており、遺跡が築かれた前後の地層にも真砂土の堆積が見られます。真砂土の地層をはさみながら遺跡が重なって発見されたことが大きな特徴といえます。

延長約370mと広範囲に広がる上野遺跡は、これまでの調査で縄文時代後期前葉（約4000年前）を中心とする大規模な集落跡であることが明らかになっています。7回の発掘調査で検出した遺構は10,000基以上、出土した遺物は4,200箱と、極めて多いことが特筆されます。今年度は集落跡の中心部を調査し、小高い範囲で建物が繰り返し建てられた居住域、居住域の南西側と北東側で遺物が多量に出土する廃棄域の位置関係が明らかになり、大規模集落の全体像が明らかになりつつあります。



朝日温海道路の路線と上野遺跡の本発掘調査範囲

## 焼人骨集積土坑とは

焼人骨集積土坑は、長さ150cm、幅100cm、深さ30cmほどの楕円形の穴の中に、焼いた人骨を納めた遺構です。別の場所で焼いた人骨を、穴の中に意図的に配列したことが明らかになった珍しい墓で、全国的に注目されています。

## 焼人骨集積土坑の検出位置

焼人骨集積土坑は、南北約100mに広がる居住域で発見されました。居住域を横断する流路跡SR103に面した緩斜面に立地し、建物が密集する範囲の縁辺にあたります。付近には墓の可能性のある土器埋設遺構が複数見つかっており、周辺が「送りの場」であった可能性があります。また、7次調査では焼人骨が出土した遺構を新たに4基検出しましたが、いずれも流路跡SR103の東側のみに分布します。SR103は、土地利用における重要な区画であったことが想定されます。

### 焼人骨集積土坑の検出状況

土坑の内部に焼骨が無数に詰まった状態で検出しました。写真南側に大きな石は墓標の可能性がありますが、土坑との関係については検討中です。

